

入学 おめでとう

入学を祝して

中央大学学長 河合 久 KAWAI Hisashi

今春、中央大学に学びの場を求める皆さんを、教職員一同、心から歓迎致します。皆さんは今日、中央大学の歴史を共に築く私たちの仲間に加わっていただきました。大学進学のために重ねられたこれまでの努力を讃えますとともに、本学への入学をお祝い申し上げます。

さて、学問や研究は、実社会とそこに生きる人々に無縁ではなく、現実事象から課題を発見し、理論を還元するといった形で、社会の営みとの相互作用により発展すべきです。常に時代とともにあり、社会の変化に適合するよう進化します。「実地應用ノ素ヲ養フ」に凝縮される中央大学の建学の精神は、このような学問研究の姿勢に根ざす教育観を表したものです。「素」とは社会に応用できる力の素地であり、「素ヲ養フ」とは知識はもとより、さまざまな体験や人との交流の中で培われるコミュニケーション力や議論する力、組織的な判断力、そして弛まず学び続ける力の涵養にほかなりません。

今日の社会基盤や産業構造の激しい変化は、物事を見るアングルを固定化できないほど加速しています。また、多様化の時代を迎え、私たちは自分の得意分野にこだわらず、異分野との融合、そして、まったく新しい人間関係や組織間の有機的相互

関係をもって、新たな世界を共創していく時代に直面しています。これから本学で学び、学生生活から得る成果を、新たな世界に価値あるものとして実装できるよう心掛けていただくことを、心から期待しています。そのことこそが本学のユニバーシティメッセージである「行動する知性。」を、ご自身によって体现することになるからです。

所属学部での学びから得た知識を社会の動きや日常の行動に当てはめて考える習慣を身につけるのもよいでしょう。そして、学生時代にしか得られない友人を多く作り、自分の考えを披歴したり共有したりして、語り合うことで知性は拡がりを見せるはずです。自分に殻を作らず、勇気をもって一歩進んでください。

私たち教職員一同は、希望と志をもって勉学に励む皆さんを、精一杯、応援しています。くれぐれも健康に留意され、将来に向けた歩みを着実に進められることを心から願っています。皆さんのご健康とご活躍を心から祈念して、お祝いのご挨拶と致します。



「経験」を積み、「挑戦」する時間に

法学部長 遠藤 研一郎 ENDO Kenichiro



厳しい寒さが身に染みる季節も終わりを告げ、暖かい陽気となりました。この4月に中央大学に入学された皆さん、ご入学、おめでとうございます。

皆さんは、今、どのような気持ちでしょうか。最初に念のため申し上げておきたいのですが、これからの学生生活は、おそらく、試行錯誤の連続だと思います。時には自分を見失ったり、ゴールが見えずに途方に暮れることもあると思います。挫折感を味わうこともあるでしょう。しかし、1つも「失敗」は、ありません。これからの学生生活の全てが、「経験」です。むしろその「経験」をするために、大学に入学するのです。是非、学問に落ち着いて身をおいて、多くの「経験」を通じて、学ぶことの難しさ、奥深さを実感してもらいたいと思います。

そして、特に、法学部に入学した諸君へ。わたしたちの住んでいる社会は、決してユートピアではありません。多くの問題を抱えています。様々な差別があり、誹謗中傷があり、暴力があり、搾取があり、事故があります。そしてそれが完全になくなることはありません。しかし、人としての営みがこれからも続く以上、その問題から目を背けるわけにはいきません。社会問題に関心を持ち、その問題を少しでも解決するために法が果

たしうる役割は何なのかを考え続けるのが、法学部生です。確かに、法は、万能ではありません。

「悪法」や「ざる法」も少なくありません。しかし、私たちの行動の多くは、法によって律せられているのも事実です。そのような意味において、法は、社会を変える力を秘めています。これからの日本、そして世界を、私たちが生きる社会をもっと良くしたいと真剣に考える法学部生が、真剣に法と向き合い、「あるべき社会」「あるべき法」という絶対的な正解のない世界に挑み続けてくれることを心から期待しています。そして、この大学生活で、真の意味で社会貢献ができる人材へと成長して欲しいと願います。

これから「挑戦」の時間が始まります。大学生活を有意義に過ごす準備はできていますか？それぞれの夢を実現する道筋は立てられていますか？時間だけは平等に与えられています。「私はギャンブルが大嫌い。でも、一つだけ賭けていいと思えるものがあるの。それは自分自身。」— ある歌手の言葉です。4年間、一本勝負。自分を信じて、頑張ってください。皆さんの健闘を期待いたします。

正解のない経済学を学ぶ意義

経済学部長 佐藤 拓也 SATO Takuya



ご入学おめでとうございます。皆さんが経済学部に進学した理由は何でしょうか。経済学部が第一志望だった人、学部よりも中央大学を志望していた人、実はそのいずれでもなかった人。理由はともあれ、私は、皆さんが経済学部に進学したことは、とても良かったことだと思っています。それは、経済学は簡単に正解が出る学問ではなく、本やインターネットの文章を暗記しても、何にもならない学問だからです。

たとえば、「少子高齢化が進むと高齢者を支える人が少なくなる、だから年金制度を維持するには消費税を増税するしかない」といったことが、ニュースやワイドショー、時には政府や「識者」からも言われます。これは、ある見方に基づけば正しいですし、別の見方に基づけば正しくありません。ここではほんの一例にすぎませんが、一口に「経済学」と言っても、そこには多種多様な見解があります。ある授業で習ったことが、別の授業では全否定されるというように、高校時代では考えられなかったことにも巡り合うでしょう。しかし、この多種多様な考え方を学ぶことこそ、テレビやインターネットなどの「見解」であっても鵜呑みにしない知識と判断力、思考力を身に付けることにつながるのです。しかも経済学部では、それを一人で

勉強するのではなく、ゼミなどを通じて、異なる意見の友人たちと議論をしながら学ぶのです。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、誰もが緊急事態宣言の下で自粛することを仕方のないものとして受け入れ、それ以外の考え方を持つことが許されないような、一歩間違えると危険な雰囲気を生みました。ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナ、ここでの戦争について、私たち一人ひとりが多様な考え方を表明することが、どれだけ許容されているのでしょうか。こうした時代だからこそ、今起きている出来事に対して、一人ひとりが複数の見解を吟味したうえで、確固とした考え方に立つことが問われます。

もちろん、勉強以外にも色々挑戦して下さい。私は学生時代、授業、ゼミ、部活、アルバイトのどれも力を入れ、毎日の予定が埋まっていました。他にも留学、ボランティア、遊びなど何でもよいので、皆さんが中央大学という場を最大限利用し尽くすつもりで学生生活を楽しんでくれることを、心より願っています。

ご入学おめでとうございます

商学部長 井上 義朗 INOUE Yoshio



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本日この日を迎えられましたことを、教職員一同心よりお慶び申し上げます。また、ご家族様をはじめ、これまで常に寄り添い、励ましてこられた皆様方にも心よりお祝い申し上げます。皆さんの夢と希望をかなえるために、少しでもお役にたてることを教職員一同願ってやみません。どうぞ、中央大学でしか得られない、充実した大学生活を築いてください。

中央大学商学部では、ビジネスの原理を中心に学んでいきます。企業を経営するにはどうしたらよいか。企業が必要とするお金はどうやって調達したらよいか。作った製品をどのようにしたら多くの消費者にとどけることができるか。そして、どのようにしたら1年間の活動の成果を正しく伝えることができるか。このうちのどれか1つが欠けても、ビジネスはうまくいかなくなります。中央大学商学部では、このそれぞれに専門学科が対応して専門的な研究と教育を行うとともに、学科間の垣根をできるだけ低くすることで、1つの専門知識だけに偏らないように、カリキュラムが工夫されています。また、ビジネスに直接かわることだけでなく、企業をとりまく経済や法律について、あるいは歴史、環境、文化についても広く学ぶことができます。大学での学修は皆さん

自身で設計するものです。ご自分の夢と希望を叶えるために、皆さんならではの時間割を作って、実りある大学生活を送ってください。

昔、ある経済学者がこんなことを言いました。「漸進もまた行動である。無為にたたずむことの上品な別名ではない」。「漸進」とは漸近線などという言葉があるように、だんだんと進むこと、少しずつゆっくり進むことを言います。毎日の学修も部活での練習も、その成果が現われるには長い時間が必要です。1日や2日でその結果が現われることはありません。そうすると私たちはつい、これでは何もしていないのと同じで、無駄な時間を過ごしているのではないかと考えてしまいます。しかし、たとえゆっくりでも、それは進んでいるのであって、止まっているのではないのです。皆さんのこれからの努力は、あとで必ず大きな実りをもたらします。それを信じて、少し難しい勉強、少しきつい練習、少し高めの目標に、果敢に取り組んでいってください。

中央大学商学部は、さまざまなかたちで皆さんをサポートします。皆さんの大学生活が、皆さんお1人おひとりにとって、かけがえのない日々となることを心より願っています。

理工のすすめ

理工学部長 梅田 和昇 UMEDA Kazunori



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんを心から歓迎します。また、ご家族の皆様にもお慶び申し上げます。ご子女がここまで成長されたことに感慨深い思いを抱かれていることと拝察いたします。

さて、今、理工系分野への注目が、日本全国で高まっています。中央大学でも、これに呼応するように、現在理工学部が発展を遂げつつあります。一つには、皆さんの入学と時を同じくして、斬新な建物である後楽園キャンパス新1号館が完成しました。物理学科・電気電子情報通信工学科の学生を中心に、恵まれた環境で研究活動を行うことができるようになります。また、1年後の2026年4月には、理工学部を再編して、基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部の3学部が設置される予定となっています。一方で、現在10ある学科は変わらず、それぞれの学科でこれまで行われてきた専門的な教育研究を続けます。変わるところと変わらないところをうまく組み合わせながら、中央大学の理工系分野がさらに発展して行きますので、どうぞご期待下さい。理工学部に入学者は、是非この環境や機運を活用し、力をつけて下さい。一方で、文系学部に入学者は、是非理工系への関心を持って頂きたいと思っています。特に、

理工学部と同じく都心にある法学部、国際情報学部に関しては、交流も容易ですし、3学部共同の科目も開講されていて好評を博しています。また、理工学部のサークルに他学部の学生が所属することも見られるようになっていきます。理工学部の皆さんも、是非文系学部の皆さんとの交流を通じ、視野を広げて欲しいと思います。大学院では、同じく都心にあるビジネススクールとの連携も盛んになりつつあります。文理融合は、中央大学の強みであり、さらに今後進んでいくことが期待されています。

さて、皆さんに今から意識しておいて欲しいことは、大学院進学です。現在、国公立大学を中心に、大学院教育がより重視されてきています。理工学部では、既に4割以上の学生が大学院に進学していますが、将来社会でより活躍するためにも、是非大学院に進学して欲しいと思っています。さらに、最先端の研究成果を挙げ、世界を牽引していく研究者・技術者となるために、博士後期課程への進学も是非視野に入れて下さい。

皆さんが中央大学で大いに成長されること、そして充実した学生生活を過ごされることをお祈りしています。

これまでより、より多くの視点を

文学部長 緑川 晶 MIDORIKAWA Akira



文学部には14の専攻・プログラムがあり、けっして「文学」だけの学部ではありません。「人間について学び・考える場」と捉えていただくと良いでしょう。過去から現代にいたるまで、人間が何を考え、何を残し、そしてどのように生きてきたのか、あるいは生きているのかを学び、さらに人間について考えるための場であると言えます。そのような意味で、人間に興味を持つすべての人にとって、最適な学びの場であると言えます。

文学部の専攻には文学、文化、歴史、哲学、社会学、教育学、心理学などの領域が含まれています。文学や歴史の範囲は日本だけに留まらず、アジアから欧米にいたるまで、時の流れを遡れば、文字記録が残る以前の1万年以上前の時代から現代にいたるまで、さらには、目の前の人との対話から世界中を巡るインターネット上の空間にまで、その対象は広がっています。このように、文学部の学びは、時間と空間を越え、人々の営みに深く結びついています。自分の専攻やプログラムでの学びだけではなく、是非とも他の領域の学びにも触れてみてください。

このような文学部での学びは、知という点では十分かもしれませんが、大学生活の魅力はそれだけに留まりません。その一つがサークルや部活動です。中央大学には文学部以外にも様々

な学部があり、学部の垣根を越えたサークルや部活動が盛んに行われています。そこには様々な価値観や考えを持った人がいますので、ぜひ、そのような人々と出会い、自身の視野を広げてみてください。

また、可能であれば様々なアルバイトやインターンシップ、それに留学にもチャレンジしてみるのも良いでしょう。アルバイトやインターンシップでは、大学生だけではなく、様々な立場、様々な年代の方々と出会えるきっかけとなります。留学では様々な国の人々と接することで、改めて自身の視野を広げるきっかけとなるはずです。

大学生は今後の人生にとってかけがえのない時期ですが、その中身を作るのは皆さん自身です。この先の将来は誰にも見通すことができませんが、この時期に様々なことを学び、様々な経験をする中で、この大学を巣立っている頃には、今とは異なった視点を持っていることでしょう。そのことが皆さんにとっての財産となるはずです。

到来する社会に 生きる学びを目指して

総合政策学部長 堤 和通 TSUTSUMI Kazumichi



入学おめでとうございます。総合政策学部を代表し、皆さんを心より歓迎します。

総合政策学部が創設された1993年は世界的には冷戦時代の終焉やユーゴ内戦の混迷に、また、日本国内ではバブル経済の崩壊や、55年体制に代わる政治の登場にみられるように、不確実性の時代といえる社会状況にありましたが、その後の社会の変化は何一つとして確実さを保証してくれるものではなく、価値観に目を向けても、また、社会情勢や趨勢に目を向けても、不確実性の領域は広がり、また深度を深めているようです。AIはわたし達がお互いを思いやる社会に向けて進むのに寄与するのか、それとも、アルゴリズムに還元できない次元を忘れさせることに寄与するのか、SNSはわたし達が共通認識のより確かな根拠を得るのに寄与するのか、それとも、共通認識など覚えられない、それぞれが自分たちにとって都合のいい「事実」を真実とする、分断を深刻にするのに寄与するのか、確実なことは言えないのが現状でしょう。

この中で、大学での学びを修めたことが、社会に出たときに自分の姿勢や取り組んでいることの意義を正しく見極め、隣人や社会に貢献するはたらきを実践するにはどのような学生時代

を送ればいいのかを自問してもらいたいと思います。

総合政策学部はこのような時代に有為な社会人を送り出すカリキュラムを用意していますが、入学のこのときに、学部での学びを活かすには学びの態度が肝要であることを自覚してください。ここでいう学びの態度とは、社会の出来事に関心をもつことと、何か疑問や考えをもったときに、疑問を解き考えを深めるのに労を惜しまないことを指します。そうすれば、社会の出来事は相互に関連し、現象として現れる次元とともにその根底にある背景や要因から出来事を捉えることができることを知り、視野を広げることができるでしょう。そして、疑問が生じたときにはそれを解く調べを行い、一定の解答が得られたときにも、そこからさらに調べを進めることで得られることがあるという経験を積むことも大切です。一言でいえば、自分の着想を大事にするということです。

弟子の準備が整ったときに師が現れるという諺が示すように、皆さんのうちに学びの姿勢を整え、また、徳とはその活動と習慣により身につくという思想が示すように、学びの徳を体現できる大学生活を送ってください。

A Gateway to the World by Applying Knowledge into Action

Dean & Professor, Faculty of Global Management, Chuo University **Shun-itsu NAKASAKO**



Welcome to Faculty of Global Management of Chuo University (GLOMAC).

“Fostering the Ability to apply knowledge to practice” is the slogan of Chuo University and our slogan of GLOMAC is “Be Ahead of the World.” We provide education and research for you on management, economics, data science, global area studies, and other related academic fields. We hope that you will bring benefit to the world and will work for the prosperity of the world as one of the business leaders.

We will try hard to offer courses to improve and stimulate knowledge acquisition abilities, communication abilities, ability to think and act as an organization, together with creativity and innovation abilities, which are mentioned in our diploma policy, for you to become one of the global

business leaders in the future to promote prosperity in the world.

Please make a lot of friends at GLOMAC. I would like you to experience diversity by learning a lot from each other and will be able to look at things from different cultural perspectives and viewpoints. The four years of college life at GLOMAC will provide a great opportunity to make life-long friends, so I would like you to embrace the rich and variety opportunities available at GLOMAC.

On behalf of the faculty members and the office staff, I would like to sincerely welcome you at GLOMAC.

「生成AI」の負の影響を極小化せよ！

国際情報学部長 **平野 晋** **HIRANO Susumu**



国際情報学部（iTL）が創設されて以来、学びの対象としてきた主な分野は、インターネットとサイバースペース、AIとデータサイエンス、ロボットとCPS(Cyber-Physical System)、更にはメタバースとアバターでした。そこに近年、「生成AI」が新たに加わりました。その生成AIの一種である〈音声AI〉は、SF映画「ターミネーター」シリーズの技術を、実現させました。同シリーズでは、アーノルド・シュワルツェネッガー演じる主人公の殺人口ロボット〈ターミネーター〉が、標的であるジョン・コナー少年そっくりの声音でしゃべる場面があったところ、今ではそれが現実になってしまったのです。だからその悪影響——例えば特殊詐欺への悪用——への対策も講じなければなりません。

ところで生成AIは、普通のAIよりも〈高度なAIシステム〉と呼ばれます。高度であると呼ばれる理由は、その〈創造性〉にあります。すなわち生成AIは、既存のAIとは比べ物にならない程に大量の情報を学んだ後に、新たな情報を「生成—generate—する」こと、言い換えればその〈創造性〉ゆえに〈高度なAIシステム〉と呼ばれるのです。

生成AIが高度であるもう一つの理由は、その〈汎用性〉にあります。問いを書き込むと答えの文章を瞬時に生成・表示してくれるAIが生成AIの代表例ですが、他にも画像、動画、音楽、そして〈音声AI〉等々のように様々なコンテンツを生み出すことが出来ます。囲碁や将棋のような特定の目的にしか利用でき

なかった〈特化型AI〉と異なり、生成AIは多様な目的に利用できる汎用性ゆえに高度なものです。

以上のような〈創造性〉と〈汎用性〉を兼ね備える高度なAIシステムは、これまで以上にヒトの能力に近づいているので、〈AGI〉と呼ばれる、ヒトと同等以上の能力を有する Artificial General Intelligence の出現も遠い未来ではなく、将来の混乱を懸念する声も聞かれ始めました。

高度なAIシステムの諸課題を解決する為には、まずは生成AIの仕組みを理解しなければなりません、それだけでは不十分です。AIの欠点や危険性を抑え込む為には、法律等のルールによって規制する必要性も出てきますから、法律の知識も必要になるのです。

幸い皆さんは、私達が知る限り日本で唯一無二のiTLに於いて〈IT：情報の仕組み〉と〈L：法学〉の双方を学ぶことが出来ます。加えて〈グローバル教養〉も身に着けられますので、高度なAIシステムに続いて必ず出現するであろう更なる新興技術——例えば〈AGI〉——が世界を変革させても、時代の変化に対応できる普遍的な考え方を育むことも出来ます。iTLの教育研究を通じて、様々な新興技術が生む諸課題を解決できる能力を養って、より良い社会構築に貢献できる人材に育て下さい。